

# 懷疑的宣言

岸田國士

青空文庫



この二三年來、私の読んだものの中で、ジュウル・ルナルの日記ほど、私の心を動かしたものはない。

私は決して、彼を所謂「偉大な作家」だと思つてはゐなかつた。しかし、これほどまでに「人間の小ささ」を悉く具へてゐる男だとも思はなかつた。私はこの日記を繙くに當つて、忽ち眉を寄せ、脇の下に汗をさへかいた。その偏狭さ、傲慢さ、嫉妬深さ、名声への卑俗な執着、病的なエゴイズム……彼は、誠に、憫笑に値する人物である。ところが、これらの「醜さ」を暴露しつゝ、その「醜さ」の陰に、燦然と光るものを覗かせてゐる。私は、思はずホツとした。彼は、人が自分に向つて云ふべきことを、自ら自分自身に言つてゐる。しかも、その態度には、懺悔風の女々しさもなく、露悪的銜気もない。彼は、そこではじめて持ち前の「正直さ」を發揮してゐるのだ。そして、その「正直さ」が、運命的とさへみえるところに、この日記全巻に漲る「恐ろしさ」があり、人間ルナルの不思議な魅力が潜んでゐるやうに思はれる。

自ら「小作家の頭目」を以て任じ、音楽と美術には縁なき衆生と公言し、人間、わけても自分の母親を嫌ひ、社会主義に楯つきながらジヨオレスを愛し、自然派の仲間に入れら

れながら、ユゴオとロスタンを讚美し、裕かだと思はれるから貧乏をし、健康さうにみえて、実は病苦に悩んでゐる彼を思ふと、私は、こゝに再び、最も愛すべく親しむべき一人の作家を見出すのである。レオン・ドオデの言葉の如く、彼こそ、あらゆる意味に於て「小ささ」による「偉大さ」への道を示し得たユニツクな作家だ。

四巻に亘る日記は、彼の死後十五年、その全集の刊行と同時に出版されたもので、日記兼ノートといふ風変りな形をとつてゐる点、殊に、赤裸々に自己解剖と容赦なき周囲への悪罵に満ちてゐる点で、最近、仏国文壇のセンセーションを捲き起した。ある批評家の如きは、この日記こそ、ルナル全集中の最大傑作なりと叫んだくらゐである。日記の日付は、一八八七年六月、彼が二十三歳の時から始まり、一九一〇年四月、臨終の一と月前に終つてゐる。何れ、完訳したいと思つてゐるが、こゝでは第一巻の中から、少しばかり見本をお目にかけておかう。

一八八八年十一月十五日

友達といふものは着物のやうなものだ。摺り切れる前に脱いだ方がいゝ。さもないと、向ふから離れて行く。

十二月二十九日

如何に多くの人間が自殺を思ひ立ち、そして写真を破るだけで満足したことか。

一八八九年四月四日

ユイスマンス作「ヴァタアル姉妹」。これは<sup>ブリキ</sup>亜鉛のゾラ、擬ひの自然主義だ。

四月十日

ブウルジユワを唾棄するのはブウルジユワ的だ。

五月二十九日

人間！ あゝ、もう小便が出たくなる。

一八九一年三月七日

おれはなんにも読まない。いゝものにぶつかるのが怖いので。

おれの微笑は黄疸にかゝつてゐる。

一八九六年八月（日付なし）

おれは、素人劇作家の劇しか好まない——ミュツセ、バンヴィル、ゴオチエがさうだ。  
サルドウウ、オオジエ、デユマ、これなら、寢床の方がましだ。

十一月九日

毎日つけてゐるこのノートは、おれが何時か書くかも知れぬ「碌でないもの」を、無事

に「墮すこと」だ。

十一月十六日

制作劇場で、「ペエア・ギユント」を観る。

悲嘆のあまり、ナウは自殺しようとする。此処でするのはよしてくれ。おれがゐなくなつてからやつてくれ。善し悪しは別として、フランス精神といふものは、兎に角あるのだ。われわれの誰が、若し書けたとしても、イプセンの戯曲を書く勇氣があるだらう。(中略)

われわれも亦、われわれの「ファウスト」を書かうかと思ふことがある。しかし、われわれは、そこで踏み止まるのだ。北方の人間は踏み止まらない。彼は、一人のブルジュワを、自由に酔ふ囚人に仕上げる。(中略)

フランス精神は、「大きなこと」を愛しはする。しかし、それが自分を何処へ連れて行くかを見ようとする。傑作の覗ひをそこにつけるのだ。

あゝ、如何に多くの天才が、おれに「一撃」を与へたことか。おれの頭は、もう割れてゐなければならぬ筈ではないか。

おれは、おれのあらゆる苦悩を賭して、他人に完全な静謐を与へようとするのだ。

十二月一日

あゝ情けない。おれはもう下手に書くことができなくなつた。

それはもう批評をするわけに行かぬ。蔭でおれを褒めてゐる作家達を、二た言目には怒らしてしまふだらう。



# 青空文庫情報

底本：「岸田國士全集21」岩波書店

1990（平成2）年7月9日発行

底本の親本：「読売新聞」

1930（昭和5）年2月15日

初出：「読売新聞」

1930（昭和5）年2月15日

入力：tatsuki

校正：門田裕志

2007年11月20日作成

2016年5月12日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# 懷疑的宣言

岸田國士

2020年 7月18日 初版

## 奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>